

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103723		
法人名	医療法人社団 青真会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム第六若葉荘		
所在地	香川県高松市三谷町4551番地6		
自己評価作成日	平成 27年 11月 15日	評価結果市町受理日	平成26年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiryosyoCd=3770103723-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成28年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、職員が家庭的な関係を保ち、共に笑顔で過ごせるよう心がけている。また、地域との交流も大切にしている。一人ひとりに即した対応、支援をし、常に意欲を引きだし、できることを増やしていけるように支援している。同一法人に透析設備を持った病院があり、医療機関との連携が充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

母体である医療法人のグループホーム共通の運営理念「家庭的な雰囲気づくり 楽しい共同生活 一人一人に即した援助」と当事業所の理念「あいさつから始まる地域との交流」を掲示し、地域に密着した事業所を目指し、地域行事への参加など地域住民との交流を大切にしている。利用者が高齢化し介護度が重度になっているが「重度化した場合における対応」「重度化した場合における看取り」の指針もあり、母体である協力医療機関との連携があり、利用者や家族の安心に繋がっている。施設内外研修を通し、職員の育成と資質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 認知症高齢者グループホーム第六若葉荘	目につく場所に理念を掲示しており、日々の生活の中で、理念にもとづいた介護の実践を行なっている。 理念「あいさつから始まる地域との交流」	法人のグループホーム共通の運営理念と当事業所の理念を居間に掲示し、職員は理念を共有している。職員は笑顔で「あいさつ」をすることを、常に意識しており、利用者への声かけや対応や地域住民との交流の際に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所にボランティアによる大正琴、獅子舞、手品などの訪問を招き、交流に努めている。	運営母体である医療法人は、コミュニティ協議会に参加し、地域のサロン活動への協力や法人主催のお祭り等、地域との交流を積極的に行っている。事業所は地域の催しや行事、清掃等の地域活動に参加している。事業所へは大正琴やフラダンス等のボランティアの訪問、お祭りには獅子舞がきている。日常の散歩時に挨拶を交わし、手作りのおはぎを近隣におすそ分けする等、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を定期的に行い、地域の方や民生委員の方へ出席していただき、入居状況を説明し、支援方法について話し合い、助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地域委員や市の方々から地域の情報をいただき、サービスの向上に活かしている。	市職員、包括支援センター職員、民生委員、民生・児童委員が出席し、2か月毎に開催し、事業所の状況や行事などの活動を報告し、地域の情報提供を受けたり、意見交換を行っている。協議の結果を、サービスの向上に活かしている。	家族や利用者、自治会長などの地域住民、ボランティアなどに参加を働きかけ、運営推進会議の参加者を増やす取り組みを期待したい。家族会と運営推進会議を同じ日に開催したり、協議するテーマにより、参加を呼びかける対象を広げるなどの工夫を検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事があれば、すぐに連絡を取り、相談を行っている。	運営推進会議に市の担当者が出席しており、常に相談、連絡がとれる関係が築かれている。市や地域包括支援センターの担当者への相談や質問事項は、法人内の事務所が窓口となり一括して行っており、事業所としては、運営推進会議での連携が中心となっている。法人内の他のグループホームからの質問や相談結果は、法人全体で情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修や外部研修に参加して、身体拘束についての理解を深めている。身体拘束ゼロを目指しており、やむを得ず必要な場合は、ご本人、ご家族、医療機関等と相談、合意の上、必要最小限で実施する。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、研修や事例検討を通し、身体拘束をしないケアについて周知をしている。月1回身体拘束廃止委員会を開催している。安全のためやむを得ず実施する場合は、家族と職員で弊害等について話し合い、同意を得て、必要最低限で実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修に参加をして、自己啓発に努めている。常に職員間で話し合いをして、見守りを十分に行い、見過ごしがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方とは連絡を取り合い、ご利用者の権利が損なわれないよう、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明等を十分に行い、不安や疑問点を確認して、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には、日々の生活の中で話を聞き、ご家族には面会時に意見や要望を聞き、それらを反映するよう心がけている。反映した内容は運営推進会議やお手紙等でお知らせしている。	面会時に、家族に利用者の近況を報告し、家族の要望や意見を聴くように努めている。意見や要望は職員間で共有し、実践に活かすよう努めている。3か月毎に行事予定を記した「若葉だより」を家族に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については管理者会議や職員会議を行い、職員の意見を提案できる機会を設け、反映するよう努めている。	管理者は、職員会議や業務の中で、職員の意見や要望を聞く機会を持っている。職員からの意見や要望は、法人の管理者会に提出され、備品購入や施設設備など、サービスの向上に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が働きやすく、各自がやりがいや向上心を持って働けるように、賞与等に反映している。就業規則の見直しを行い、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修の参加を呼びかけ、外部研修の参加は要綱を見て、その都度、参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はあるが、外部の同業者については交流はできていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との話の中で、不安や要望等を聞き、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよく話し合い、困っていることを聞き、不安や要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話し合い、まず必要としている支援の対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者から昔の生活の知恵などの助言をいただきながら、職員とともに簡単な家事などを行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時に、状況や状態等を報告し、支援策をお互いに話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の方の協力で、関係が保たれている方もいるが、住所が荘に移っている方は、関係が希薄になっている。	家族の協力を得ながら、外泊や外出、外食などに出かけている。遠方から知人が訪問するなど、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の要望などを聞き入れ、ご利用者同士がうまくコミュニケーションが取れるよう、声掛けをおこなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が退所された場合は、必要に応じてご家族と連絡を取り合い、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを取り、信頼関係を築き、困難な方は、表情からくみ取り、ご利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	日々の支援の中で、利用者の思いや意向を聴いている。意思表示が困難な利用者の場合は、表情や声かけ時の反応、家族等の情報から意向を把握するように努め、本人本位に検討するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いたり、ご本人から可能な限り話を聞いて、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしに近づけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけご利用者一人ひとりが、自分の意思のもとで、一日一日を過ごせるような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に、ご本人を交え、ご家族等の要望を確認したうえで、介護計画を作成し、必要に応じてその都度、見直しを行っている。	ケース担当制をとっている。利用者や家族、担当職員から得た情報を基に、職員全員でモニタリングを行い、計画作成者が介護計画を作成し、利用者や家族の同意を得ている。利用者の状態が変化し、見直しが必要になった場合は、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を詳しく介護記録や申し送りノートに記入し、情報を共有し意見交換しながら、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、関係者間で話し合いながら、支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の委員の方の情報により、地域行事に参加できるよう常に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携ができており、協力医療機関による月1回の定期受診を実施している。救急時などは適切な医療がうけられる。	利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援しており、いままでのかかりつけ医での受診を尊重している。協力医療機関をかかりつけ医とした場合は、月1回定期受診している。協力医療機関以外での受診は、家族に同行をお願いしているが、状況に応じ柔軟に対応している。受診結果は家族と職員が共有している。週1回、歯科医の往診がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調変化や急変など、協力病院の看護師に相談し、アドバイスを受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、事業所でできる支援について、ご家族や病院関係者等に伝え、協力、支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りについて説明している。重度化等、状態に変化が見られるようになった際は、ご家族と相談しながら、でききだけの支援ができるように努めている。	契約時に本人や家族の要望を聞き、「重度化した場合における対応」「重度化した場合における看取り」を基に説明し、同意を得ている。利用者の状態が変化した時は、その都度、家族や医療関係者、職員で話し合い方針を共有している。医療法人が運営する事業所であり、日常的な医療との連携体制があるため、本人や家族の希望に沿った支援が可能であり、看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的には訓練は行っていないのが現状である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を、職員全員が交代しながら定期的に行っている。また消防・消防・民生委員・地域の方たちに協力をお願いしている。	年2回、夜間を想定した防火訓練を実施し、利用者も参加し、避難経路や避難方法を訓練している。利用者の居室前には避難用の蛍光たすきを備え、避難の際にたすきをすることで、その部屋の利用者が避難したこと、避難した利用者が事業所の利用者であることがわかるよう工夫している。非常持ち出し物や備蓄を準備している。建物や設備の地震への対応状況の確認を行っている。	水害や地震想定災害対応訓練等を検討されたい。職員のみでの対応には限界があるので、災害時に事業所が地域に対してお願いしたいことや法人として地域に協力できることを検討し、運営推進会議などで地域に提案するなどの取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の気持ちを持って接し、個々の人柄等を尊重し、言葉遣い等に常に気をつけるよう、心がけている。	プライバシー保護マニュアルを作成し、研修を実施し、居室への入室時のノック、排泄や入浴時のプライバシー保護について、職員に意識づけを行っている。法人全体として接遇の研修に取り組んでおり、人生の先輩として尊敬の気持ちを持って利用者と接すること、人柄や性格などを尊重した言葉づかいを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりに話しかけ、傾聴し、表現や自己決定ができる雰囲気を作るなど支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は、事業者の一日の流れによるサービスを行っているが、できるだけ、本人の希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お買い物にて、ご本人の好きな洋服を選んでもらったり、その日の気温に応じた服装をアドバイスし、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みによる支援をできるだけ行っている。手伝いなどは、ご利用者の重度化により全員は難しいが、出来る方に、簡単な手伝いをしてもらっている。	栄養士が献立を立て、各ユニットで調理して利用者の食べ易い形態に盛り付け、職員と共に食事をしている。お花見には弁当、お誕生会には利用者の好む寿司や刺身が提供され、月に2～3回、「おはぎ」や「たこ焼き」などのおやつ作りを行い、食事が楽しみになるよう工夫している。野菜の下ごしらえや食材の準備、テーブル拭き等に、利用者の力が活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスなどは、栄養士が献立を立て、ご利用者一人ひとりに応じた食材の大きさや量に調整している。水分や一日の食事摂取量を把握し、記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の一日3回、自立の方には声かけをして促し、困難な方には職員が介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位不可能な方は、オムツ対応とし、立位可能な方は、排泄チェック表に基づき、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表や利用者の動作から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけによるトイレ誘導などで、トイレでの排泄を支援をしている。夜間は、利用者の睡眠状態に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事面での工夫をし、また、内服薬等、排便がスムーズになるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望の時間は難しいが、できる限り本人の体調や希望を取り入れながら、個々に応じた入浴を行っている。	利用者の体調や希望に合わせ、入浴日や時間を変更し、タイミングを見ながら声かけをし、一人ひとりに応じた入浴を週2回行っている。一般浴槽と機械浴の設備があり、高齢化と重度化により、機械浴を利用する利用者が多くなっている。入浴剤を使用したり、ゆず湯にして、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、ご本人の希望を聞き入れ、個々の体調や状況により、その時々に応じた臥床時間を取っていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をカルテにファイルしており、変更があった場合は、医師からの説明を個々に記入し、目的や用途を申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、できそうな事柄に取り組んでいただき、支援している。季節に沿ったレクリエーションを行い、参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての外出支援は十分にできていないが、買い物やドライブ、日光浴など、できるだけ外出できるよう支援している。	菖蒲祭りや菊花展など、四季折々にドライブや近隣の神社でのお花見には、家族の協力を得て利用者全員が参加している。買い物や散歩など、日常の外出は利用者ひとり一人の希望に沿うように支援している。外出が困難な場合は、中庭のベンチで皆でおやつを楽しみ、外気浴と五感を刺激する機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。買い物等に行く時は、自分で購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の電話や手紙を取り次ぎしている。ご本人の希望があれば、電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、七夕やクリスマスなどの季節感を感じられるように工夫している。室温度計を設置し、インフルエンザなど感染病予防に注意を払っている。	玄関には節句人形と季節の花が飾られ、居間や廊下には利用者が書いた書などの作品が掲示されている。居間には畳のスペースがあり、中庭や菜園を望むことができ、季節感を感じることができる。居間や廊下は広く、整理・整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日、食事する席は決まっているが、テレビの見やすい位置に移動したり、話をされたり、自由に動けるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の使い慣れた物などは、自宅より持ってきていただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人や家族に使い慣れたものを持参されるよう説明し、家族の写真や置物、テレビなど利用者の好みの物、馴染みの物を持ち込まれており、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で移動できる方は、ホールやトイレが近い居室にしている。また自室が、認識できるような工夫を行っている。廊下は安全のため、障害になるような物は置かないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 認知症高齢者グループホーム第六若葉荘	あいさつから始まる地域との交流を理念として、地域、ご利用者のニーズ、事業所の状況の変化によって、現状に合った介護の実践を行っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、お祭り、初詣、花火大会などの行事に参加したり、地域の人による語り部、大正琴などの訪問を受け、交流に努めている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的に行い、民生委員、児童民生委員の方に出席していただき、行事予定、災害時の協力支援方法について話し合い、助言をいただいている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の委員の方から地域の情報や、市の方からもその時期の情報を頂き、サービスの向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの会議に参加させてもらい、情報交換会や研修に参加し、サービスの向上に活かしている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修や外部研修に参加して、身体拘束についての理解を深めている。身体拘束ゼロを目指しており、やむを得ず必要な場合は、ご本人やご家族、医療機関等と相談、合意の上、必要最小限で実施する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修等に参加して、意欲の向上に努めている。常に職員間で話し合いをして、見守りを十分に行い、見逃しがないように防止に努めている。

自己	外部	項目	自己評価	
			実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用が必要なご利用者はいないが、必要性が出てきた場合は、利用を支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い、不安や疑問点などを尋ね理解を得ている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には日々の生活の中で話を聞き、ご家族には面会時に意見や要望を聞き、それらを反映するよう心掛けている。反映した内容は運営推進会議やお手紙等でお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については、管理者会議や職員会議を行い、職員が意見を提案できる機会を設け、反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、毎日楽しく働きやすくやりがいがあり、向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修の参加を呼びかけ、外部研修への参加も案内を見て、その都度参加を勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター開催の会議に積極的に参加し、同業者との交流や勉強の機会が持てるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの話や行動、求めている事、不安や要望等を把握し、信頼関係づくりに努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の苦労や不安なこと、要望などに耳を傾け、サービスに活かせるよう関係づくりに努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対し、ご本人とご家族が必要としている支援の対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族が面会に来られた時に状態等を報告し、支援策を話し合い、対応に努めている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に状況、状態を報告し、ご家族と同じような思いで支援している事を伝えている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で外出、外泊、同一法人内の施設を利用しているご家族との面会を増やすことにより、馴染みの方との関係が途切れないよう努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、一緒にカラオケをしたりゲームをしたりして、話し合いの機会を作り支援に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方のところへ遊びに行ったり、行事に参加したり、ご家族からの相談や支援に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けして把握に努めている。困難な場合は、ご家族から情報を得るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から情報を得ることにより、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしに近づけるよう支援している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活リズムを、職員全員が把握できるよう努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に意見を聞き、相談、連絡、話し合いを行い、職員全員でモニタリングを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌、申し送りノートに詳しく記入し、情報を共有し、意見交換しながら見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、関係者で話し合いながら支援に取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方、地域の人たちの情報により、地域行事に参加できるよう常に支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、入居前からのかかりつけ医院での医療を受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回訪問に来ていただいた時に、体調管理など相談し対応してもらっている。また、他の看護師とも気軽に相談等が出来る関係がある。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、病院での状況を問い合わせたり、ご家族と情報交換をしながら、病院関係者などと速やかに退院支援に結びつけている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、医師と話し合い、できるだけ支援を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを参考に提携医療機関に連絡し、指示を仰ぎ、職員間で話し合っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は、職員全員の担当を決め、担当を交代しながら、地域、消防の方々にも協力をお願いしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬や個々の人柄など尊重し、プライバシーを損なわない対応の努力をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりに声掛けし、職員側で押し付ける事はせず、ご本人の思いや希望を話していただけるような雰囲気づくりに努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして事業所側の決まりで過ごしているが、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応するよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示が出来る方には、ご本人に聞きながら服を選んでいる。難しい方には一緒に考えるなど支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年々高齢の方が多くなり、調理の手伝いはされていないが、テーブル拭きや裏の畑の野菜の収穫など、出来る事をしていただいている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通じての水分量や食事摂取量を記録し、職員が情報を共有している。栄養バランスは、栄養士により考えられている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っている。困難な方には、職員が介助を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない方にもトイレの声掛け、トイレ誘導など自立にむけた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、水分補給、食事の工夫、体操の呼びかけをしている。効果が見られない場合、主治医に相談し支援している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせた入浴は十分にできていないが、入浴日にはゆっくり話をしながら、個々にそった支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間は取っていないが、ご本人の生活リズムを乱さないよう、その時々状況に応じて支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前を確認して手渡し、服用できているか確認している。薬の目的、副作用、用法に関しては、お薬情報をよく読み理解している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、新聞の四つ折り、広告でのごみ箱作りなど、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援している。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそった外出支援は十分に出来ていないが、季節ごとにお花見、花火大会、紅葉見学など季節を感じてもらっている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお預かりして、ご利用者が希望すれば一緒に買い物に行き、個々で購入できるよう支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は、他のご利用者に聞こえない場所を提供をするなどして支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、外出した時の写真を飾ったりしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるような場所を工夫したり、ホールのテーブルの座る場所も、どの場所に座っても構わないようにその都度対応できるようにしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が持って来ている写真を飾ったり、自分の過ごしやすい居室(ベッドの位置)などを工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者にとって「できること」「わかること」を追求し、状況に合った環境整備に努めている。問題があった場合は、職員で話し合い不安材料を取り除くよう工夫している。